

「学生ファーストで環境整備」140周年記念館

地鎮祭が執り行われました

140周年記念館(A棟)の地鎮祭が令和6(2024)年6月に執り行われ、清水建設株式会社 宮本洋一 代表取締役会長、株式会社石本建築事務所 長尾昌高 代表取締役社長、学校法人渡辺学園 菅谷定彦 理事長をはじめ、各関係者が出席しました。



左から宮本代表取締役会長、菅谷理事長、長尾代表取締役社長

施設概要 イマジネーションを多様に刺激しアクティブな学修と交流を促進する場として、以下の施設が入ります。

A棟 1F~3F・4F

博物館常設展示室・企画展示室・博物館関連施設・実習室など

博物館活動をさらに充実させるため、展示室などの主要施設を拡充・強化。展示による公開に加え、デジタルコンテンツの作成・発信を推進して、重要有形民俗文化財「渡辺学園 裁縫雛形コレクション」をはじめとする豊富な収蔵品の魅力を発信します。



A棟 5F 多目的演習室フロア

アクティブな学びと交流、学生ファーストの学習スペース。学生自身が取り組む様々な社会課題解決プロジェクトアシストするデジタルクリエイションフロア

A棟 6F デジタルクリエイションフロア

抽象的でわかりにくいデジタルの世界を、実際に触って見えるようにして学べます。レーザーカッターや3Dプリンターなどの機材を整備して、リアルな世界とバーチャルな世界を学生が融合できるようにします。さらにさまざまな学科の学びや、社会課題解決のための学生の自主活動に活かせる、DX時代のものづくり力を養成します。

A棟 7F デジタルクリエイションフロア・IT支援室

本学の学生や教員が、気軽にちょっと進んだ動画や音楽を制作して発信できるようにするための収録スタジオと編集設備を整備。授業のための動画作りや、ダンスや音楽のサークル活動の発表など、デジタル技術をつかって表現力を向上させることができます。8階で推進するDX(デジタルトランスフォーメーション)についての研究・実践の場との連携機能を持たせます。

A棟 8F XR対応教室・共創スペース・DX対応教室

ARやVRといった最新の映像技術を取り入れた未来の学びの世界を体感できるスペースのあるフロア。狭山と板橋の合同授業も可能で、キャンパスを超えた学生間交流もできます。新たなデジタルな学びの世界を体感できます。ハードだけでなく、教職員や学生との活動への支援も視野に入れていきます。



B棟 1F オープンスペース

開放的な空間のオープンスペースを学生のための広場として設置

2026年 東京家政大学 板橋キャンパスに完成予定

渡辺学園創立140周年記念館は、社会課題の解決につながるデジタル時代の学びと創造性の体現として、学生ファーストで環境を整備し、2026年、板橋キャンパスに完成予定となります。



HP

新校舎コンセプト

伝統・現在・未来 3つの結節点となる140周年記念館

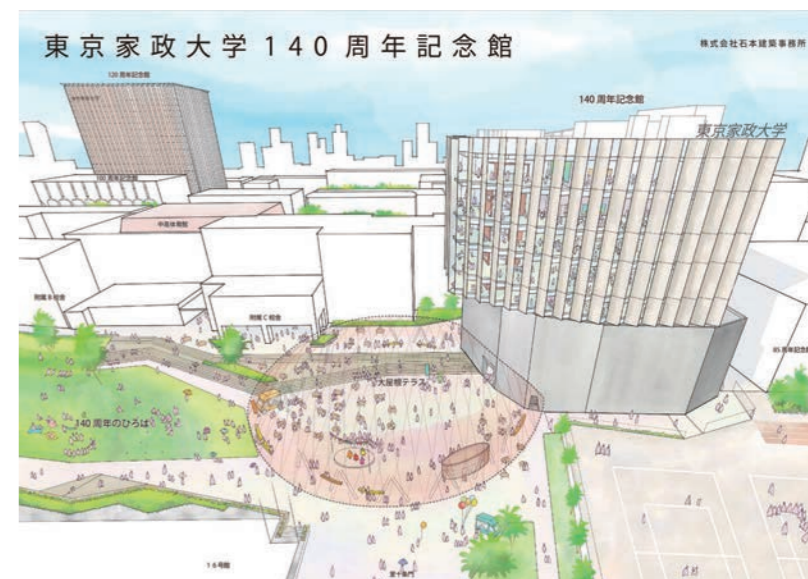
140周年記念館は学園の伝統と未来、そして現在を結ぶ結節点です。本記念館は、現在の学生の集いと出会いの場「ドームの大屋根テラス」、歴史と伝統を担う「博物館」、未来への新たな学びと研究の姿をつくる「DX強化の拠点」という3つの要素からなり、それぞれに相応しい姿を与えています。それら3つの要素が等価に、手をとりあい、一体となるように全体像がつけられています。

キャンパスの新しいハブとしての140周年記念館

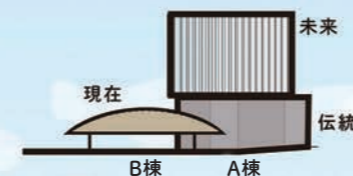
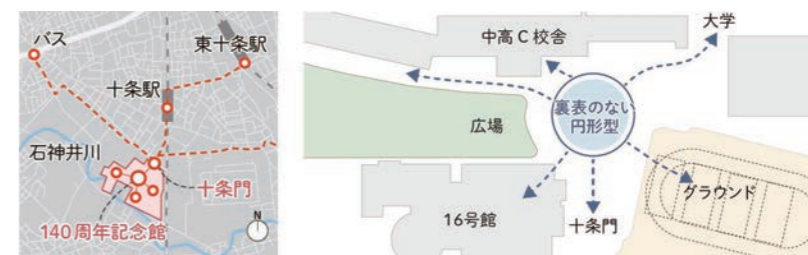
十条門は公共交通機関からのアクセスが良く学園の顔、交通の結節点となっていく大切な場所です。今回の計画を、このキャンパスの新しいコミュニケーションの中心、「ハブ」となるべきものとしてとらえました。

出会いと交流の結節点

本計画地は中・高・大学、学外など、十条門から訪れるすべての方を迎え入れます。そして、それぞれの場所への中継点として、動線が交わる大切な場所です。この動線がこの場所の「コミュニケーションのハブ」としてのポテンシャルです。動線が交わるハブの中は、憩いや、出会い、発見の場があり、そこで人と人、人とモノ、人とコト、人と学び、などの、交流の結節点となります。



十条門

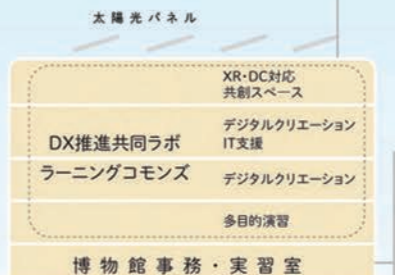


現在、集う・出会う：大屋根テラス (B棟)

140周年記念館を訪れたすべての方がドームの下に会い、コミュニケーションのハブとなります。ひとつつながりのおおらかであたたかみのある空間は、リラックスしたオープンな場をつくりだします。ドームは、イベントスペース、待ち合わせ、憩いなどに活用される場です。140周年記念館のシンボルとなり、コミュニケーションを触発する、集いと出会いの場です。

140周年のひろば

豊かな緑・伸びやかに広がる広々とした多様な居場所をつくる階段テラス。気持ちの良い憩いの場をつくりだします。



未来への新たな学びの姿をつくる (A棟 5~8F)

イマジネーションを多様に刺激しアクティブな学修と交流を促進する場。ジグザグの外壁は日射を制御しながら眺望を確保する環境配慮型の外観であると共に内部側には学生の居場所をつくりだします。イノベティブで開かれた創造的な空気の元、新しいアイデアやアプローチを試すことを奨励する、ラボのような活動的でラフなインテリアです。オープンでフラットな空間、各階をつなぐコミュニケーション階段などにより、協力や協働、オープンなコミュニケーションを刺激します。

歴史と伝統を担う博物館 (A棟 1~3・4F)

学園の歴史と伝統を見据え・発信する場です。外観は敷地形状から導かれた多角形の外壁を特徴としています。また、内観では素材感を大切にすることで、時代に左右されない重厚な存在感を目指します。学園の歴史資料を保護し、次世代に繋げることを使命としています。学園の歴史を紹介する常設展示室や、様々な展示が可能なコレクション展示室、企画展示室などが含まれています。